



成長する選手達へ

# 今、挑め。

## 2026 昇鷹伝 ISKA北陸甲信越カップ

### キックボクシング長野県大会

選手登録はこちらからWEBで!!



[https://www.nstgym.com/  
2026iskahokurikukousinetsucup](https://www.nstgym.com/2026iskahokurikukousinetsucup)

# 6.7

日曜日

開催日 2026年6月7日 日

会場 長野運動公園 総合運動場体育館 柔道場  
長野県長野市吉田5丁目1-19

エントリー締切 5月17日

日時：2026年6月7日(日) 開場9時 開会式10時~

会場：長野運動公園総合運動場 総合体育館 柔道場

主催：NST GYM

顧問：初代 S-cup チャンピオン 吉鷹 弘 (来席)



# HISTORY OF ISKA



## ISKAの歴史

International Sport Kickboxing & Karate Association=ISKAは、ファイトスポーツ(キックボクシング、MMA)の認定管理をする機構団体である。

1986年6月16日にフロリダ州・ジュネズビルを本部に発足された。現在の会長は、コーリー・シェイファー。

アメリカ各州の代表プロモーター達と元PKAイベントディレクター達が、「世界へ通用するタイトル管理統括をする認定団体・セクション機構を」という意義でスタートした。

同年10月9日にはヨーロッパ統括本部(現会長はポール・ヘネシー)が発足された。

ISKAでは、プロフェッショナル部門と、セミプロも含むアマチュア部門の2つがある。

プロ部門は、フルコンタクトキック(アメリカン空手)、キックボクシング(フリースタイルルール、

オリエンタルルール、K-1ルール、ムエタイルール)、MMA部門の競技を統括、認定している。

例:ベラトル、グローリーともにISKAへの認定・認可を依頼し、世界各国の国家許可証書等をそれぞれの国のスポーツ省から、大会開催免許を取得している。



ポール・ヘネシー (EU代表)      コーリー・シェイファー (ISKA代表)

### ISKAとテレビ放送の歴史について

アメリカでの初のスポーツ専門チャンネル局ESPNが、“ISKA認定キックボクシング”と言う目玉番組として1986年より全米でスタート。当時のアメリカ・ヘビー級王者として大スターとなったのは、デニス・アレクシオ、ドン・星野・ウィルソン、リック・ルーファスなど。ヨーロッパ地区では、後年にK1初代王者となるブランコ・シカティクラが輩出された。

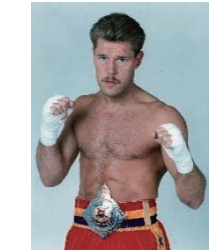
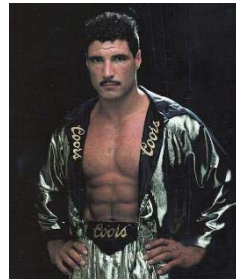
デニス・アレクシオに関しては、1989年ベルギー出身の有名ハリウッド俳優ジャンクロード・ヴァンダム主演の映画”キックボクサー”(全世界同時公開された)へも出演し、ヴァンダムとダブル主演を演じ、キックボクシングを知らない世代へもその存在が浸透した。

世界初のスポーツ専門テレビ局 ESPNとは?

ISKAの発足当時1980年代中盤のアメリカでは、ケーブルテレビネットワーク網の視聴が大変盛んだった。

それが現在のペーパービュー放送や、衛星放送の歴史にも通じる。昨今、日本の一般家庭で視聴されるようになった。

WOWOWやスカパーなどを含めた衛星放送の“番組を買って見る”と言う基本形になった。AMEBAの有料放送もこれに該当する。



当時のアメリカでケーブルTVでアクション映画は人気のコンテンツ。アクション映画が好きな視聴者をリアルファイトスポーツへの誘導は簡単でキックボクシングの人気に火がついた。

当時は人気キックボクサー(ドン星野・ウィルソンやデル・クックなど)がアクション映画と平行してプロモーション活動することがアメリカでは多かった。

1990年代中盤には、フランスの大手スポーツ専門TV局カナルプラスにてフランス各地から毎週末にISKA認定の世界戦が生

中継されはじめオランダのロブ・カーマン、アンドレ・マナート(現オランダ・目白ジム会長)、アーネスト・ホースト、オーストラリアよりヘビー級世界8冠王スタン”The MAN”ロギニディス、ジェロム・レ・バンナ、マンソン・ギブソンなどがこの認定機構の王座を獲得し、大人気となった。

アフリカエリアを含むヨーロッパ全土でもこのISKA認定機構が権威を増し キックボクシング、国際ルール・ムエタイのヨーロッパでの大ブームへのかけ橋となり、1990年前後にはこの競技の世界最大の認定機構団体となる。日本では、93年に発足したK-1が一挙ムーブメントを興し世界へと浸透していった。数々のISKAチャンピオンがK-1でも活躍した。2000年以降に日本のK-1 MAXの前身大会K-1 J-MAXにて魔娑斗がムラッド・サリ(フランス)とプロ部門の世界ウェルター級タイトルマッチへの認定試合を開催した。

近年ではRISEプロモーションで那須川天心、原口健飛、大崎一貴がタイトルを獲得している。本年6月に武尊がパリで開催されたMTGPでタイトルを獲得したことも記憶に新しい。

日本では、2009年11月にK-1を創始した石井和義氏の実弟である石井俊治氏が「ISKAジャパン」の代表に任命された。

2015年10月1日に加藤勉氏がISKA日本代表に就任(2017年5月退任)。

2017年5月14日より現代表の中崎寿光(Nakazaki Toshimitsu)が3代目代表に就任。

2023年4月1日に、ISKA日本支部局のアマチュア部門の代表として、甘井もとゆき(Amai Motoyuki)が就任した。

2023年4月1日に、ISKA日本支部局のプロ部門、アマチュア部門等 全てのルール統括部長として 河邊 健司(Kobe Kenji)が就任。

2023年10月ミュンヘンで開催されたISKAアマチュア世界大会に日本チームとして視察、ルール統括部長の河邊健司がグラップリング競技に参加し3位に入賞、日本人初のメダリストとなる。

競技参加翌日に日本人として初のオフィシャルレフリーテストにチャレンジし合格した。

2023年12月1日ISKAジャパンレフリー試験が初開催、Cレベルテストに2名が合格した。

2023年12月10日、日本初となるISKA公式ルールに基づくアマチュア大会を愛知県豊橋市で開催。

# 【ISKA ジャパンアマチュアルール】 防具について

## PROTECTERS OF ISKA JAPAN



ジュニアクラスはフェイスガード付を使用（小学生まで）マウスピースも着用。



ノーズガードがあるヘッドギアは使用不可、マウスピースは必ず着用  
中学生以上はヘッドガードになります。



12歳以上の女子選手はチェストガードを必ず着用



**MEN**



グローブは出場クラスの規定サイズを使用する事。縫い目が破れている等、劣化の激しい物は使用不可となる。バンテージはハンドラップ型も使用可能。

グローブサイズは以下とする  
ジュニア（中学生まで）  
8オンス（-30キロ） 10オンス（-40キロ） 12オンス（-50キロ）  
14オンス（+50キロ）  
一般（高校生以上）  
12オンス（-65キロ） 14オンス（-75キロ） 16オンス（+75キロ）



**WOMEN**



男子選手はファウルカップを必ず着用  
ファウルカップは全高製物を推奨



膝サポーターは衝撃材が1cm以上の厚みがある物に限る劣化が激しい物は認めない。  
ジュニアクラスの膝サポーターは衝撃材が1cm以上の厚みがあるコットン製の物に限る。  
ジュニアクラス以外はコットン製は使用不可、合成製の膝ガードを使用する事。



女子選手はアプスメントガードを必ず着用



上半身は、男子は肩かラッシュガード、女子はチェストガードの上にラッシュガードも着用。両方聞いたら制約が見える場合は見えないように蒸れも可。ラッシュガードはファスナーやスパンコールやビーズの無い物に限る。Tシャツは不可。



下半身はキックパンツかファイトパンツに限る。ファスナーやポケットがあるものは不可。装飾に金属やプラスチックなど硬質の素材が使われているものは使用できない。スバップは不可。

- ※防具は持ち込みとなります
  - ※試合着としてラッシュガード着用義務（Tシャツ不可）
  - ※入れ墨（タトゥー）を隠す長袖可
  - ※女子はインナーチェストの上にラッシュガード可
- 防具劣化チェックから劣化が激しい場合、貸出をおすすめ致します  
 <貸出ご希望の方へ>  
 試合用ヘッドガード（ジュニア含む）・グローブ等は各貸出当日 300 円



ポール・ヘネシー（EU代表）





**←このようなグローブは使用禁止です**

- ・痛みが激しく  
革がところどころ剥げている
- ・やぶけている

**ヘッドギア、その他の防具も同様です。  
劣化が激しい場合、貸し出しを利用してください。**



## ISKA ジャパンアマチュアルール

### 【試合構成】

1. 試合は、それぞれ最大 2 分間の最大 5 ラウンドで構成することができる。  
各ラウンドの間に最低 1 分間の休憩。  
例①予選 本線 2 分 2R 延長 1R 決勝 2 分 3R 延長 1R  
例②予選 本線 2 分 1R 延長 1R 決勝 2 分 2R 延長 1R  
延長戦は全てマスト判定とする。  
募集クラスのレベルにより主催者の判断で 1 分 30 秒などの試合時間を設ける事も可能。
2. レフリーおよびリングサイドの医師のみが、試合を停止する権限を与えられている。  
その他の裁定については主催者に委ねられる。抗議が提出された場合、適正な手続きにより明確なルール違反を主張する事が出来る。
3. すべての試合は、3 人のジャッジによって評価され採点される。
4. 採点:
  - A. 10 ポイントスコアリングシステムでおこなわれる。ラウンドの勝者には 10 ポイントが与えられる。
  - B. ラウンドは 10-9、10-8、または 10-7 のポイントで判断される。
  - C. ラウンドが拮抗している場合 10-10 のスコアが与えられる。
  - D. 各ラウンドごとに採点がされ、優劣を判断するアクションがなかった場合、そのラウンドはドロー（引き分け）として採点される。これは審査員の判断に委ねられている。

### 【試合場】

1. 競技場にはボクシングリングもしくは、柔道畳、ウレタンマット（厚み 1.5 センチ以上）の物を使用すること。
2. ボクシングリングの内寸（ロープ内）は縦横 488 センチ以上であること。  
柔道畳、ウレタンマットの内寸（競技スペース）は縦横 546 センチ以上であること。

### 【採点基準】

試合は、次の優先基準を使用して評価される。

1. ノックダウンの数。
2. 対戦相手に対する有効打。

3. クリーンヒット（的確な打撃）の数
4. リングジェネラルシップ（積極的にゲームメイクしている事）
5. ノックダウンの場合、レフェリーは立っている選手をニュートラル コーナーに送り、ダウンしたファイターを 8 カウントをまで数える。

ダウンは、ファイターが足の裏以外のものでマットに触れたときとして定義される。認められた攻撃でダメージを与えた結果として体制を崩した場合、スリップかダウンが宣告される。無防備な姿勢でロープにもたれなかった場合レフリーは、ダウンを宣告する。

レフリーが「スリップ」と示した位置からレフリーの指示の後に起き上がれなかった場合、ダウンが宣告され審判はカウントを開始し、ノックダウンの手順を始める。

ファイターが 10 カウントで立ち上がらない場合、KO と見なされる。

選手が怪我をした場合レフリーは、その裁量の適切な行使において、医師を呼び怪我を治療することができる。

対戦相手の有効打によって裂傷等の怪我を負った場合ノックダウン、TKO によって対戦相手の勝者を宣言する。
6. フリーノックダウンルールを採用しているが、1 回目のダウンでもレフリーが危険と判断した場合は、1 回目のダウンでもテクニカルノックアウトが宣告される。ダウンはカウント 8 までコールするが、レフリーの判断でカウントアウトとなる場合もある。
7. レフリーは「8 カウント」まで数えダウンしたファイターが継続すべきかどうかについて最善の判断を下す。
8. 最終ラウンドでダウンしたファイターは、ゴングによって救われる。
9. すべての選手は、試合中にマウスピースを着用する必要があるし、着用なしで試合を開始することはできない。

試合中にマウスピースが外れた場合、レフリーは試合時間を止め、マウスピースをすぎ、最初に選手の口に戻す。

マウスピースを意図的に外していると判断した場合は減点することができる。
10. ファイターがリングから落ちた（畳の試合場は仕切り線から出る）場合、ファイターは 20 秒以内にリングに戻らなければならない。ファイターは、観客またはセコンドを含め、誰からもサポートを受けてはならない。ファイターがアシストされた場合、ポイントが差し引かれるか、失格となる可能性がある。

ファイターが故意にリングから落下または投げ出された場合、レフリーは試合時間を止め選手にリングの戻る許可を与えなければならない。怪我があった場合、リングサイドの医師に判断を求める、落としたファイターに罰則を科す。

レフリーは、必要に応じて反則、減点のアクションを示す。

## 11.ファウル（反則）

- A. 頭突き。
- B. ローブロー（下腹部・金的への攻撃）。
- C. 膝関節に向けられた全ての打撃。
- D. 後頭部や背骨（背後から正中線）への攻撃。後頭部とは耳から後ろへの部分を指す。
- E. のどへの攻撃。（クリンチの際に喉を絞めること）
- F. ダウンしているファイターを攻撃する。
- G. レフリーの指示に従わない。レフリーに話しかける。
- H. ブレイクの後の攻撃
- I. ギョウの後の攻撃
- J. 攻防中またはクリンチ中にローブを保持または使用する。
- K. 相手との攻防を避ける消極的な行為。（反則を故意にアピールすること）
- L. 虐待的な言葉やジェスチャーの使用。相手に唾を吐く等の行為。セコンドも含む。
- M. 故意に動作を遅らせる：例えば、マウスピース口から吐き出すことを繰り返す。  
リングから落ちて遅延を引き起こす。

## N.サミング

- O. 攻撃に繋がらないキャッチを繰り返す行為。（ファイターは相手の蹴っている足をつかみ1回のみ攻撃が出来る。一步を踏み出す間に1回の攻撃を行った後、すぐに足を離さなければならない。）
- P. 認められた打撃以外の方法で選手をダウンさせようとする試み。ネックロック、サブミッション、スイープ、タックル、テイクダウン、投げを含む。
- Q. 噛む。
- R. グローブの部分以外の他の部分で打つこと。
- S. ホールディング。これは、対戦相手を繰り返しかむ、または拘束することを定義とする。相手の攻撃を防ぐための消極的なクリンチは認めないが攻撃につなげる掴みは認める。レフリーが攻撃につなげるための判断した場合はこれに含まず。  
膠着状態が続くと判断した場合5秒以内にレフリーは選手を引き離す。

## T. 相手の頭への膝打ち

## U.バックハンドブロー

反則についてレフリーは次のアクションをとる。

1 回目の反則：口頭注意

2 回目の反則：警告（イエローカード提示）

3 回目の反則：減点1失格（レッドカード提示）

反則はラウンドリセット、種類分けせずに累積される。

例：ローブロー+消極的クリンチ=減点2

## 12. 有効な打撃:

- A. すべてのボクシングストライクは、認められたターゲットエリアに対して行われる。
- B. 認められたターゲットエリアへの膝打ち
- C. ベルトラインより上の許容されるターゲットへのすべてのキック攻撃
- D. 足またはすねを使って実行されるすべてのキック、正面から膝関節に向けた打撃は反則です。

認められた攻撃箇所

- a) 頭の前部と側面（顔面膝蹴りは反則）
- b) フロントとベルト部分より上の胴体の側面。
- c) ローキックによる膝関節（正面から）を除く脚全体。

13. 試合の勝者は、次の方法で決定される。

- A. ポイントの判定: 両方の競技者が予定されたラウンドを終了するとジャッジの得点により勝敗が決定する。
- B. ノックアウト: 競技者がレフリーの 10 カウント以内に試合を再開できない場合 KO が宣告されます。
- C. テクニカル ノックアウト (TKO) :

- 1. 競技者が競技を再開する意思を示さない、または競技を再開することができないとレフリーが判断した場合 TKO が宣告される。
- 2. オフィシャル（主催者）が試合を続けるに値しないと判断した場合。
- 3. ラウンド開始ゴングの後、ファイターがコーナーを離れなかった場合。
- 4. レフリーが、勝敗がついていると判断した場合。

試合を続けることはアスリートの健康と安全を危険にさらすこととなります。

- 5. 正当な攻撃（反則以外）による負傷により、医療上の理由で試合が中止になった場合。
- 6. セCONDがレフリーに指示した場合（試合放棄）  
選手のセCOND（コーチ/コーナーマン）がタオルをリングに投げる行為をした場合。

D. 失格:

- 1. レフリーが、故意過失にかかわらず反則行為を理由に選手を失格にすることができる。
- 2. レフリーは、試合中にコーナーからセCONDがリングに入った場合、その選手を失格とする。

休憩時間以外のラウンド中に、ファイターの 1 人に触れたりした場合も同じ。

オフィシャルの許可がある場合を除く。

E. ドロー:

- 1. すべてのラウンドの終了後、3 人のジャッジのうち少なくとも 2 人以上がいずれかを支持しなかった場合。
- 2. 両方のファイターが同時にダウンし、どちらも試合を再開できない場合。  
レフリーのテンカウントは必要です。

F. ノーコンテスト:

1. 1ラウンドで偶発的なファウルの結果として試合を続行できない場合。

意図的なファウルによる負傷:

- A. 故意のファウルにより、試合が中断するほどの深刻な怪我を負った場合  
直ちに、ファウルを引き起こしたファイターは反則負けとなる。
- B. レフリーがアクシデントにより競技を継続できない場合。
- C. 故意の反則による負傷により、試合の途中で試合が中止された場合。

2ラウンド以降

- (i) 負傷した選手が1ラウンドポイントで優位に立っている場合、反則した選手は失格と宣言され、1ラウンドのジャッジが反映され勝利が宣告される。
- (ii) 負傷した選手が1ラウンドのポイントが劣っている場合、試合は無効になる。  
テクニカルドロウとなる。
- D. ファイターが対戦相手の反則で怪我をしたが、試合を続けることができた場合、レフリーは何の処置も取らないが、怪我を正当な打撃によって生じたものとして扱ってはならない。もしもレフリーが、負傷した選手が試合を続けることができないと判断した場合、その選手はTKO/KOで負ける。有効打にかかわらず嘔吐などにより試合を中断する場合も、その選手はTKO/KOで負ける。

14. 偶発的なファウルによる負傷

- A. 故意でない反則により、試合が中断するほどの深刻な怪我を負った場合  
試合が完了していない場合、試合は無効試合という結果になるものとする。  
1ラウンドが成立していない場合に限る。
- B. 意図しない反則により、試合が終了した時点で試合を中止するほどの重傷を負った場合。

1ラウンド試合が成立している場合、試合はそのラウンドの採点で判断されます。

判定による不成立なラウンドを含む。

2ラウンドの試合の場合、1ラウンドを完了するか、3ラウンドの試合の場合、2ラウンドを完了した時点でネクストラウンドの開催を決める。

UNINTENTIONAL ファウルによる負傷が、すぐに試合を中止できるほど深刻ではない場合に限る。

ラウンド開始後、反則ダメージにより試合が中止される原因となった場合、試合は没収試合とされるものとする。

未完のラウンドを含め、それまでのラウンドを審議し試合公式のものであるかどうかの決定。それ以外の場合、試合は無効試合になる。

- C. ファイターが故意に対戦相手にファウルを試みて怪我をさせた場合:

- (i) 試合を継続できる場合、レフェリーは休憩以外の措置をしない。
- (ii) 選手がスポーツマンシップに反する行為をしたとレフリーが感じた場合

レフリーは試合を止め、選手を失格にすることができる。

15. グローブは8～14 オンス(小学生～中学生)12～16 オンス (高校生以上) のボクシンググローブを使用。

ヘッドギアおよびシンガード(脛あて)すねを含むプロテクターは、ISKA ジャパン本部によって決定される。

16. 男性の競技者は、上半身にラッシュガード以外の衣類やその他の服装を着用してはならない。タトゥー(刺青)がある競技者はタトゥー部分が見えないようにラッシュガードを着用する必要がある。

女性競技者は、半袖(肘より上)のラッシュガードまたはスポーツブラを着用する必要がある。タトゥー(刺青)がある競技者はタトゥー部分が見えないようにラッシュガードを着用する必要がある。

17. 試合終了前に選手はリングを離れてはならない。試合開始時にいない場合、レフリーはカウントを開始しKOを宣告する。

18. 規定体重をオーバーした選手は既定体重の4%以内であれば減点1を与えられた状態で試合出場が出来るが、4%を超える体重の場合は失格となる。

2024年4月22日改訂

# 反則行為



顔面への膝蹴り



金的、下腹部への攻撃



サミング、バタニング  
バックブロー、ヒジを使った  
頭部への攻撃



相手を投げる  
タックルも禁止



倒れた相手への攻撃  
(相手を踏みつける事も禁止)



関節技、締め技

※蹴り足を掴む行為、腕を掴む、相手を固定する攻撃は反則



レフリーの指示に従わない。  
選手、セコンドがレフリーに抗議する。  
選手、セコンドがレフリー、対戦相手に侮辱的な言動・行為をする。  
試合場に唾をはく、物を投げつけるなどの行為。  
セコンドが自身の選手に対し侮辱的な言動・行為をする。  
試合中に選手・セコンドがレフリーに話しかける。  
試合開始時に装備に不備がある場合。  
故意にマウスピースを吐く、レフリーの指示なしにサポーターを直すなどの行為。

## 反則についてレフリーは次のアクションをとる

1回目の反則：口頭注意

2回目の反則：減点1（イエローカード提示）

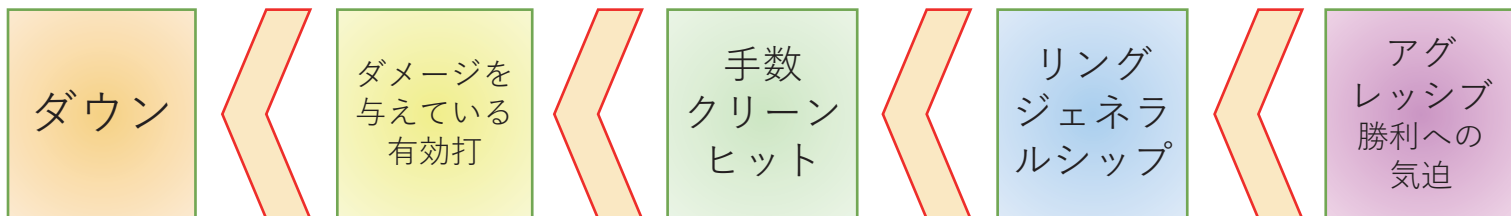
3回目の反則：減点2（イエローカード提示）

4回目の反則：減点3（レッドカード提示）→失格

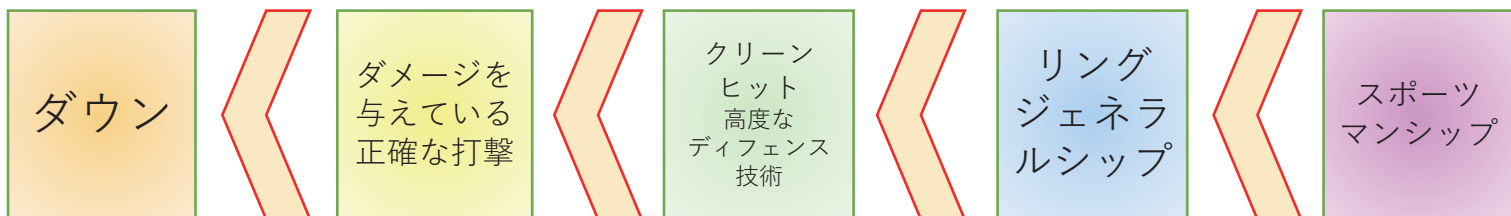
反則はラウンドリセットせず、種類分けせずに累積される。

例：ローブロー＋消極的クリンチ＝減点2

## 日本のキックボクシングの判断順位



## ISKAの判断順位



### クリーンヒットとは

クリーンヒットとは、ガードで守られていない箇所を正確に捉えている事を言う。有効打であるかの判断はジャッジがスピード、強度を考慮し見極める。

### 高度なディフェンスとは

相手の攻撃をブロッキングや体捌き（スウェー、ダッキング等）を使い、相手の攻撃を無力化するような技術を指す。クリンチなどの消極的行為は含まない。

### リングジェネラルシップとは

主導権を握るという意味であるが、ゲームメイクをしている事を指す。前に出ている側を見るのではなく、下がりながらも相手を自身のペースに引き込んでいるのであれば、それは主導権を握っていると言える。日本のキックボクシングで判断基準とされる「アグレッシブ」「気迫」は判断基準に一切含まない。

### スポーツマンシップとは

ISKAはスポーツキックボクシングを提唱しております。ルールを守り正々堂々と戦う事、相手をリスペクトする事は理念に掲げられております。故にルールを順守し反則をしない事も判断基準である。

## タイマー・ゴング係

### 1ラウンド

レフリーが「ジャッジ、ジャッジ、ジャッジ、ゴング」と言ってゴング係を指さす。

アナウンス係が「ラウンドワン」と言う。

レフリーが「ファイト」と言ったらゴングを鳴らす。

ラウンド終了10秒前には机を叩いてレフリーに知らせる。

試合時間終了とともにゴングを叩く。

※ビギナークラスは1ラウンドで終了。

ルーキークラス、エキスパートクラス、選抜クラスは2ラウンドで終了

### 2ラウンド

ラスト10秒になったら机を叩いてレフリーに知らせる。

試合終了と同時にゴングを叩く。

アナウンス係が「試合終了」

レフリーが選手を中央に集める。

アナウンス係が「判定」とコール

旗の数を数えて以下のアナウンス

「『2-1』の判定を持ちまして勝者赤コーナー〇〇選手」

### インターバル

ラスト10秒になったら机を叩いてレフリーに知らせる。

レフリーが「ジャッジ、ジャッジ、ジャッジ」と確認を取る。

レフリーが「ゲット・レディ」と言う。

アナウンス係が「ラウンド2」と言う。

ゴング係がゴングを鳴らす。

### ダウンコール

レフリーが「ダウン」と手を上げる。

アナウンス係が「ワン・ツー・スリー・フォー」と数える。

レフリーが両手を交差したら「ノックアウト」とアナウンス

ノックアウトが決まったら「勝者赤コーナー〇〇選手」とコール

# 対戦表①

※「ワンマッチ戦」表記について：トーナメントに登録したも人数が足りずに結果的にワンマッチになったもの  
※勝利者のみ記念のメダルを授与 ※対戦相手が空欄の場合は全日本出場権を優先獲得

<第1試合> 全日本選抜 高校生 -60kg (ワンマッチ戦) 2分2ラウンド インターバル 60秒

**高野 謙臣**

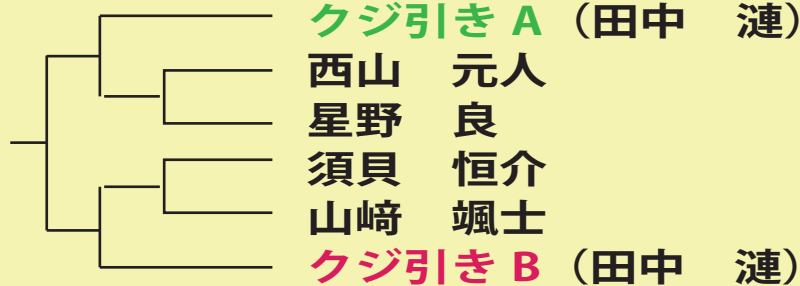
タカノ ケンシン K-1 アマBクラス 55kg、60kg トーナメント優勝  
175cm 60kg 16歳 所属：北斗会館浅科道場

VS

**田中 漣**

タナカ レン 戦績：14勝6敗  
165cm 55kg 17歳 所属：フリー

【全日本選抜 高校生 -55kg】  
トーナメント表



<第2試合> 全日本選抜 高校生 -55kg (トーナメント戦) 2分2ラウンド インターバル 60秒

**山崎 颯士**

ヤマザキ ハヤト 38戦20勝 K-1 アマBクラス -45kg 優勝  
175cm 55kg 16歳 所属：北斗会館浅科道場

VS

**須貝 恒介**

スガイ コウスケ 3戦3勝  
166cm 55kg 17歳 所属：STS

<第3試合> 全日本選抜 高校生 -55kg (トーナメント戦) 2分2ラウンド インターバル 60秒

**星野 良**

ホシノ リョウ 2戦2勝  
175cm 54kg 17歳 所属：NSTジム

VS

**西山 元人**

ニシヤマ ゲント 戦績：なし  
163cm 52kg 16歳 所属：グリオンジム

<第4試合> ビギナークラス一般 -56kg 契約 (ワンマッチ戦) 2分1ラウンド

**加藤 光騎**

カトウ ミツキ 戦績：なし  
168cm 20歳 所属：Club TOSHI

VS

**長坂 拡**

ナガサカ ヒロキ 戦績：なし  
172cm 27歳 所属：フォーランバス

# 対戦表②

※「ワンマッチ戦」表記について：トーナメントに登録したも人数が足りずに結果的にワンマッチになったもの  
※勝利者のみ記念のメダルを授与 ※対戦相手が空欄の場合は全日本出場権を優先獲得

<第5試合> ビギナークラス一般 -60kg (ワンマッチ戦) 2分1ラウンド

**岩松 昂**

イワマツ コウ 戦績：なし  
173cm 60kg 20歳 所属：フォーランバス

VS

**小林 翔**

コバヤシ ショウ 戦績：なし  
170cm 60kg 19歳 所属：NSTジム

<第6試合> 全日本選抜クラス中学生女子 -40kg 1分30秒2ラウンド インターバル45秒

**上田 紫乃**

ウエダ シノ 戦績：なし  
145cm 40kg 12歳 所属：山本道場

VS

<第7試合> 全日本選抜クラス中学生女子 -50kg 1分30秒2ラウンド インターバル45秒

**山本 ライラ**

ヤマモト ライラ 戦績：なし  
155cm 47kg 14歳 所属：山本道場

VS

<第8試合> 全日本選抜 高校生 -55kg (トーナメント戦) 2分2ラウンド インターバル60秒

**第2か第3試合の勝者**

**vs 田中 連**

タナカ レン 戦績：14勝6敗  
165cm 55kg 17歳 所属：フリー

<第9試合> 全日本選抜クラス高校生女子 -45kg 2分2ラウンド インターバル60秒

**齋藤 杏奈**

サイトウ アンナ 戦績：1勝1敗1分  
152cm 45kg 17歳 所属：STS

VS

<第10試合> 全日本選抜クラス高校生 -50kg (ワンマッチ戦) 2分2ラウンド インターバル60秒

**相澤 海心**

アイザワ ルイ 戦績：1勝1分  
177cm 50kg 15歳 所属：NSTジム

VS

**清野 龍也**

セイノ リュウヤ 戦績：2戦2勝  
171cm 50kg 17歳 所属：STS

# 対戦表③

※「ワンマッチ戦」表記について：トーナメントに登録したも人数が足りずに結果的にワンマッチになったもの  
※勝利者のみ記念のメダルを授与 ※対戦相手が空欄の場合は全日本出場権を優先獲得

<第 11 試合> 全日本選抜クラス一般 -65kg (ワンマッチ戦) 2分2ラウンド インターバル 60 秒

**野田 寛心**

ノダ ヒロノシン 戦績：1戦1分  
168cm 65kg 26歳 所属：グリオンジム

VS

**小林 翔**

コバヤシ ショウ 戦績：なし  
170cm 60kg 19歳 所属：NST ジム

<第 12 試合> 全日本選抜クラス マスター (31～35歳) -80kg 2分2ラウンド インターバル 60 秒

**押木 英慶**

オシキ ヨシミチ 戦績：2戦2勝  
180 cm 80kg 34歳 所属：STS

VS

<第 13 試合> 全日本選抜 高校生 -55kg 決勝戦 (トーナメント戦) 2分2ラウンド インターバル 60 秒

**トーナメント決勝戦**